

公開講座の開設主旨・目的等

グローバル化が進む現在、私たちの生活は今まで以上に多文化的になっています。芸術の分野も例外ではありません。諸外国との接触が急激に増えた19世紀半ばから、洋の東西を問わず、異文化の要素を取り入れた芸術作品が多く制作されてきました。今回の公開講座では、そうした芸術の歴史と現在について考えることで、多文化共生のヒントを探りたいと思います。

【第一講義】

19世紀末から20世紀初頭の西洋の前衛芸術家たちは、アフリカやオセアニアの美術に触れ、新しいヴィジョンの可能性に目覚めた。こうして始まったのが「プリミティヴィズム」と呼ばれる傾向である。芸術家たちは、異なる文化の視覚言語をどのように分析し、理解したのか。その試みの到達点と、葛藤や矛盾に注目しながら、プリミティヴィズムの歴史と文化を紐解く。

【第二講義】

演出家・劇作家の鈴木忠志は東京を脱出し、富山県の山奥にある利賀村で演劇活動を開始。1982年には日本初の世界演劇祭「利賀フェスティバル」を創設し、今年も利賀でシアター・オリムピックスが開催される。テーマはCreating Bridges。現在のグローバル化され均一化されていく世界の中で、異なる文化や異質であることを尊重し、新しい共存のルールをつくるために「橋を架ける」。「リア王」などの鈴木演出を分析しながら、真の国際交流と多文化共生の場としての演劇＝劇場を考えたい。

講義日程・題目及び講師

回	講義日	時間	講義題目	講師
1	10月5日	13:20～14:50	モダニズム芸術におけるプリミティヴィズム ー普遍主義と相対主義の対話と葛藤	松井裕美
2		15:10～16:40	演劇と多文化共生のルール	藤野一夫

連絡先

〒657-8501
神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学国際人間科学部鶴甲第一キャンパス事務課総務係
TEL:078-803-7515
FAX:078-803-7509